

< 要望書抜粋 >

第139回日商簿記試験の第1問の1に関する解答公開の要望です。  
個別の問い合わせには応じないという前提だと思いますが、あえて質問させていただきます。

< 1 >

既存の工場の増設工事について、3回に分けて各¥10,000,000を分割支払いする建設工事契約を締結しそれぞれ建設仮勘定に計上している。これが完成して最終回の支払いを当座預金から行い、また、建設工事代金の総額¥30,000,000を、建物と既存の修繕費¥800,000に振り替えた。

- ①過去に2回 建設仮勘定 10,000,000 / 現預金 10,000,000 の仕訳を行っている
- ②最終回の支払：建設仮勘定 10,000,000 / 当座預金 10,000,000
- ③振替                   ・ 建物 29,200,000 / 建設仮勘定 30,000,000  
                              修繕費 800,000

このような流れの設問だと認識しております。たくさんの受講生から問い合わせを頂いているのは「下記仕訳では間違いなのか」という事です

建物 29,200,000 / 建設仮勘定 20,000,000  
修繕費 800,000 / 当座預金 10,000,000

弊社の見解では仮勘定はあくまでも仮（集計）勘定であり（厳密には建設中のために使用できない資産と、完成して利用できる資産を区別する科目）、この設問の主旨は最終的な振替先科目だと考えております。従って、<借方建物 29,200,000、修繕費 800,000>の結果が元帳や試算表、さらには決算報告書に反映すればいいわけで、建設仮勘定は元帳上その消込が確認できれば十分だと思います。従って建設仮勘定を相殺した先の仕訳でも正解だと認識しています。

設問間の整合性からも考えてみました。

2.広告用看板の掲示に関する契約を締結し、今後3年分の広告料金¥27,000,000を普通預金から支払ってその総額をいったん資産に計上し、さらに計上した資産から当月分(1か月分)の費用の計上を行った

この問題は明確に、「相殺してはならない」という指示だと認識できますが、1に関しては明確な相殺禁止の指示はありません。この点からも1に関しては相殺した仕訳でも間違いではないと考えております。

今後の受講生に対する説明をしっかりと行う為にも商工会議所の方で別解ありかどうかをホームページ等で掲載頂ければ幸いです。

最後になりますが、弊社がこのような要望を出させて頂いている理由を記します。弊社は関西地区で15年間職業訓練を実施し、特に日商簿記・電子会計中級・日商PC検定を就職に役立つ資格という事で薦めさせて頂いております。

特に、日商簿記2級に関しては「就職に役立つ資格」という事で国家試験ではありませんが、国家試験並みの評価があるという事で受講生もかなりの時間を費やして学習をしています。「子供が寝てから勉強しています」、「親の介護の合間に勉強しています」。「この問題に対してはこの解答」というのがあってこそその資格試験だと思います。

一部の試験では配点調整や別解調整があると聞いております。ただ日商簿記2級に関しては「解答がはっきりしている試験」であり(1週間で結果が出る事から明らかです)、受験生の正当な努力が報われるためにも、解答の公開を望みます。

結果的に弊社の解答が間違いであれば、反省し解説を確認したうえで次回からの講座に活かすことも可能です。

受験生が切実な思いで「時間とお金」を使い、自身の人生をかえるために学習している状況をご理解いただき、あらためて解答の公開をお願い申し上げます。